

平成21年度外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業

八戸市立白鷗小学校

1 学校の概要

(1) 学校規模

- ① 学級数：17学級（内特別支援学級1学級）
- ② 生徒数：474名
- ③ 教職員数：26名
- ④ 活動の対象学年：5学年・3学級・100名、6学年・3学級・85名

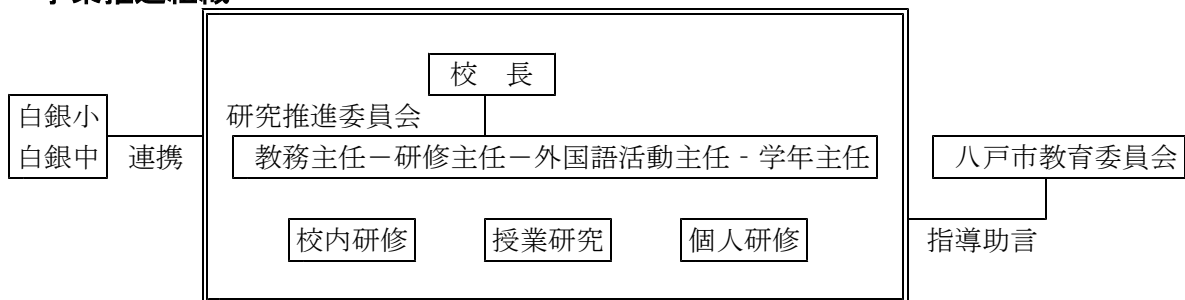
(2) 学校環境

- ① 海に近く、昔は漁業や海にかかわる職業に従事している人が多かった。最近は団地もでき、宅地化が進んできている。
- ② 周辺地域には、英語を話す外国人や英語が堪能な日本人は住んでおらず、英語塾等もない。

(3) 連絡先

- ① 住所：〒031-0822
青森県八戸市白銀町中平13番地3号
- ② 電話：0178-33-6624
- ③ FAX：0178-32-1035
- ④ ホームページ：http://www.hachinohe.ed.jp/hakuou_e/
- ⑤ 電子メール：hakuou_e@hec/hachinohe.ed.jp

2 事業推進組織



3 事業経過

月	取組の内容	備考
4月	<ul style="list-style-type: none">・基本計画の共通理解及び授業の開始・ALTとの指導方法の打ち合わせ・参観日での授業公開（6年1組）	
5月	<ul style="list-style-type: none">・校内研修（外国語活動の基本理念について、研究の概要について）・教材研究・教材作成・授業実践	
	<ul style="list-style-type: none">・第1回青森県外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等	

6月	<ul style="list-style-type: none"> に関する実践研究事業推進協議会出席（取組の現状についての発表） ・中学校授業参観（英語を含む）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究（教育指導課訪問において、指導主事より指導を受ける。） 6年3組 「英語ノート」 2 Lesson 4 ・校内研修（コミュニケーション能力の育成、「英語ノート」のゲームやアクティビティについて）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修（教材作成の方法、クラスルーム・イングリッシュ） ～ALTを招聘しての研修会～
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施 ・指導案作成、教材研究、授業実践 ・電子黒板の使い方研修会 1
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教員の授業参観 ・平成21年度小学校における英語活動等国際理解活動指導者研修に参加 ・教材作成、授業実践
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・参観日で外国語の授業を公開（5年3組） ・教材作成、授業実践
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究 教科等研究委員研究授業への参加 ・八戸市小学校教育研究会外国語活動の冬期講習会に参加 ・電子黒板の使い方研修会 2
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業に係る研修会に参加 ・平成21年度外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業推進協議会出席（成果と課題についての発表） ・校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ①外国語活動におけるコミュニケーション能力の育成について ②授業研究 6年1組 「英語ノート」 2 Lesson9 ・アンケート実施
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開に向けた指導案検討会、準備 ・授業公開の実施（5・6年授業公開） ・研究のまとめ
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート実施 ・次年度の研究計画作成 ・年間指導計画の見直し

4 具体的取組内容

（1）文部科学省が作成する小学校における外国語活動のための教材を活用した授業の実践

- ① 「英語ノート」や「英語ノート」準拠デジタル教材を単元指導計画の中で、児童の実態に合わせて順序を変えたり内容を変更したりしながら授業実践に取り組んだ。
- ② 「英語ノート」指導資料集を活用し、内容を分析した。その中で、発展的な活動として示されている「タスク」等を取り入れる工夫をした。
- ③ 児童の興味・関心を高めるために、絵カードや身近なものの写真、絵や写真を加工したプレゼンテーション教材等を作成し、「英語ノート」と組み合わせた授業実践に取り組んだ。

(2) コミュニケーション能力の素地に関する評価の観点及び評価方法の研究

- ① 毎時間の目標を明確にして授業に取り組んだ。
- ② 短時間で児童の自己評価を行わせるために、「英語ノート」の余白に感想や振り返りなどを書き込ませることを継続して行った。
- ③ 座席表・名列表を利用した評価を行った。

(3) 児童の興味・関心等の学習状況の変容に関する定量的な把握及び文部科学省が実施するアンケート等の調査の実施

- ① アンケートを実施し、児童の興味・関心等の変容に関する定量的な把握を図った。
- ② アンケート結果の分析を行った。

(4) 授業の中心となる学級担任等及び校内の他の教員の指導力向上のための取組

- ① 外国語活動についての研修会を、校内研修の中に位置付けて指導力向上に取り組んだ。
ア. 外国語活動の基礎理念について、教材教具の作成についての研修
イ. ALTを招聘してのクラスルーム・イングリッシュの研修
- ② 校内の外国語担当教員と学級担任がチームティーチングで授業を行うことにより、授業実践についての日常的な研修を行った。

(5) 学級担任等を補助するためのALTや地域人材等の外部人材の効果的な活用

- ① 1単元1時間程度、ALTとのチームティーチングによる授業を行った。
- ② ALTと一緒に教材研究をしたり、ALTと協力して教材を作成したりした。八戸市では1中学校区を同じALTが担当し、継続して訪問している。本校のALTは、授業の補助の他、国際理解の推進のための掲示物を作成したり、プレゼンテーションを作成したりした。



(6) 他の小学校や中学校等との連携

- ① 小・中ジョイントスクール推進事業の中で、中学校の授業を参観した。
- ② 中学校教員が来校し、小学校の授業の様子を参観した。
- ③ 近隣の学校の校内研修に参加した。

(7) その他（校内における外国語活動推進体制の構築、地域との連携等）

- ① 外国語に対する校内の児童の興味・関心を高めるために、掲示コーナーを作成した。
- ② 参観日の際には外国語の授業を設定し、学校評議員にも授業を公開して外国語活動への取組を理解してもらえるようにした。



5 取組の成果と課題

(1) 成果

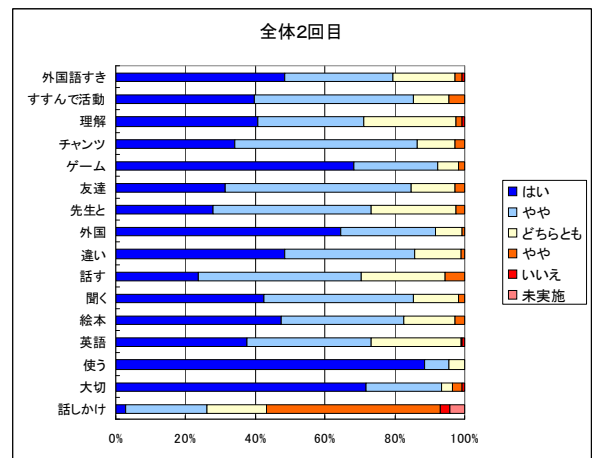
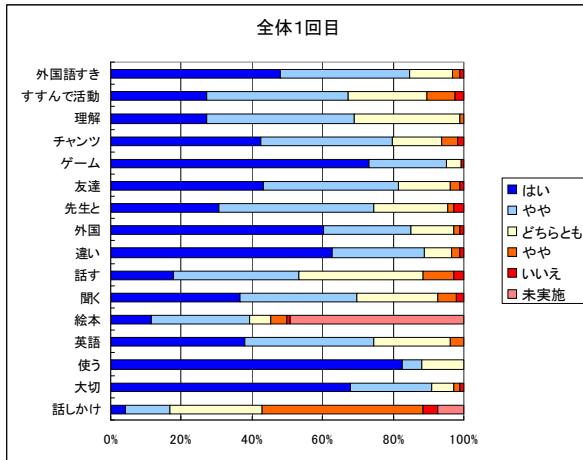
- ① 「英語ノート」や「英語ノート」準拠デジタル教材を、単元の指導計画の中で子どもの実態に合わせて順序を変えたり、内容を変更したりしながら適切に活用できるように授業を考え、実践した。例えば単元の導入で行った「Let's Listen」の部分を単元の後半で再度扱ったり、ゲーム等の入れ替えをしたりして授業を行った。その結果、子どもたちは無理なく安心して活動することができた。授業後の感想の中でも、「1回目は、よく分からなかったけれど、2回目では聞き取ることができてうれしかった。」とあり、単元の中で同じような活動を繰り返して行うことが効果的であることが分かった。
- ② 「英語ノート」指導資料集の発展的な活動で示されている「タスク」を工夫して取り入れることで、児童が意欲的に継続して活動に取り組むことができた。また、タスクの中でインタビュー活動や作品の製作、Show and Tellを段階を経て取り入れた。その結果、児童は自然に外国語の音声や表現に慣れるとともに、自信をもってコミュニケーションしようとする姿勢が見られるようになった。
- ③ 児童の実態により即するよう、写真やキャラクターのイラストを取り入れた教材を作成したり、自作のプレゼンテーションを作成したりした。「英語ノート」と組み合わせて授業に取り組むことにより、児童が興味・関心をもって聞いたり発表したりする様子が見られた。
- ④ 授業の中で、少しでも児童が自分自身の思いを伝え合う場をもつように工夫した。授業後、普段あまり発言しない児童が「自分の意見を発表したかった。」という感想を書いていた。また、「友達と意見を聞き合って楽しかった。」と言う児童もおり、成果が見られた。
- ⑤ 「英語ノート」の余白に児童の振り返りを書かせることで、短時間で効率よく自己評価させることができた。また、毎時間ではないが、名列表や座席表を活用して児童の様子を観察し、評価に生かすように取り組んだ。

(2) 課題

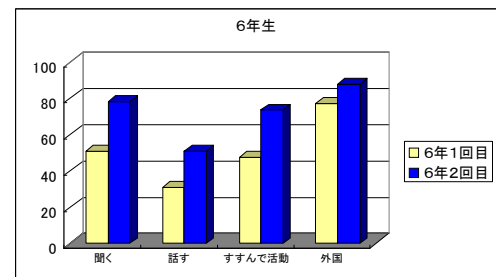
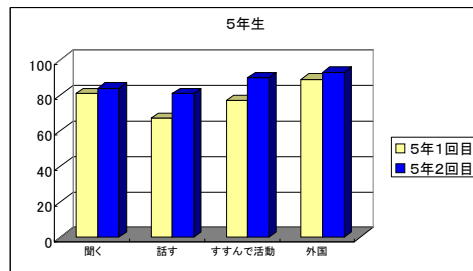
- ① 自作の教材や「英語ノート」を生かしたゲーム・教材集などをしっかりとデータベース化して、校内の教員がいつでも使えるように整備しておかなければならない。
- ② 今年度の実践をもとに、児童の実態に即した評価規準を作成する必要がある。児童の様子を的確に把握し、評価を指導に生かすためにも、視点を明確にした評価規準一覧表を今後作成していかなければならない。
- ③ 評価方法として、主に「英語ノート」を活用して記述させる方法をとってきた。学期ごとにカードを使用して自己評価させるなど、児童自身が数値的に自分の変化を感じ取れるような評価も組み合わせていく必要がある。
- ④ 校内の職員の資質向上のための研修を行ったが、学校規模や校内体制により、どうしても職員間の温度差が見られる。全職員がある程度の必要感をもって研修や研究に取り組めるような校内体制の整備が急務である。
- ⑤ 地域人材等の外部人材の活用については、今年度行うことができなかった。次年度以降取り組んでいきたい。
- ⑥ 中学校や近隣小学校との連携を深めたい。双方の授業参観を一步進めた形で、教材・教具の共有や協同授業など、可能な範囲内で連携を進めたい。

<アンケートの結果より>

9月と1月に、文部科学省で実施したアンケートの結果をまとめた。「外国語活動が好き」と答えた児童は比較的多く、ゲームやチャンツなどを好んでいることが分かる。



その中で、特に変化の見られた項目は以下の項目である。

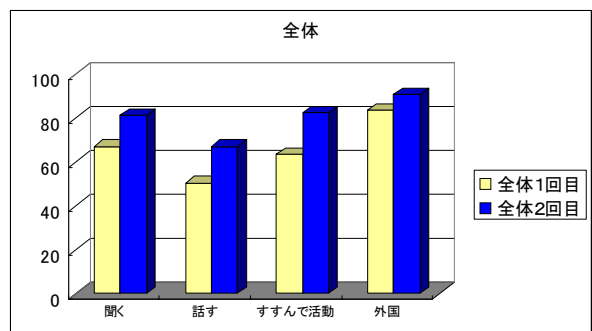


「外国語活動の授業の中で楽しいと思うこと」の設問の中では、「英語で友達や先生のこと、他の人の意見を聞くこと」「英語で自分のことや意見を発表すること」「外国のことについて学ぶこと」を「好き」または「やや好き」と思う児童が増えてきている。

このことは、授業の中でお互いに尋ね合ったりする活動の他、Show and Tellやスピーチなど、自分の考えを話す機会を少しずつでも取り入れたことの成果であると考えられる。

外国語活動の時間の中では、ゲームなどの楽しい活動が児童には好まれる傾向にある。そのような中でも、コミュニケーションすることの楽しさを少しずつ感じ取らせていくこと、自分のことを話したり他の人の考えを聞くことの大切さを感じ取らせていくことが重要になってくると感じた。

また、本校児童の課題として、自己肯定感の低さが挙げられる。頑張ったことやよくなったことを教師が十分に認めてやり、子どもたち同士でも認め合うことで、自分のよさを自分で自覚できるような指導を継続していきたい。



6 年間指導計画

月	第5学年		第6学年	
	単元	内容	単元	内容
4月	Lesson1 世界の「こんにちは」を知ろう	●世界にはいろいろな挨拶があることを知り、友達と名刺交換をして挨拶をする。	Lesson1 アルファベットで遊ぼう	●アルファベットの大文字を読み、文字と音を一致させる。
5月	Lesson2 ジェスチャーをしよう	●ジェスチャーの大切さを知り、感情や様子をジェスチャーを付けて表現し伝える。	Lesson2 いろいろな文字があることを知ろう	●世界のいろいろな文字に興味をもち、アルファベットの小文字とその読み方を一致させる。
6月	Lesson3 数で遊ぼう	●世界にはいろいろなジェスチャーがあることを知るとともに、数を使ったゲームを行う。	Lesson3 友達の誕生日を知ろう	●日本の行事や月の名前とともに英語の月の言い方を知り、友達と誕生日を聞いたり答えたりする。
7月	Lesson4 自己紹介をしよう	●自分の好き嫌いを尋ねたり、自分の好きなものを含めて自己紹介をしたりする。	Lesson4 できることを紹介しよう	●友達とできることやできないことを尋ね合い、内容を理解する。
9月	Lesson5 いろいろな衣装を知ろう	●世界には様々な衣装があることを知り、好みをはっきり言って買物ができるようにする。	Lesson5 建物案内をしよう	●建物の名前や方向・動きを表す表現を用いて、道案内したり案内に従って目的地に着いたりする。
10月	Lesson6 外来語を知ろう	●外来語とその由来の語との発音の違いに留意して発音し、友達とやりとりをしてフルーツパフェを作る。	Lesson6 行ってみたい国を紹介しよう	●世界の国や各国の英語に興味をもち、行きたい国を理由とともに言ったり、相手の行きたい国を理解したりする。
11月				
12月	Lesson7 クイズ大会をしよう	●英語と日本語の違いを通して言葉の成り立ちの面白さに気付くとともに、友達と尋ね合っってクイズ大会を楽しむ。	Lesson8 オリジナルの劇をつくろう	●世界のいろいろな物語を知り、興味をもって聞くとともに、オリジナルの劇を作って発表したり聞いたりする。
1月	Lesson8 時間割を作ろう	●時間割を比較し、各国の学校の様子に関心をもたせるとともに、オリジナルな時間割を作って発表し合う。	Lesson9 将来の夢を紹介しよう	●様々な職業の言い方を知り、将来つきたい職業について聞き合ったり、理由とともにスピーチしたりする。
2月				
3月	Lesson9 ランチメニューを作ろう	●日本と外国の食の違いに気付かせるとともに、やりとりを通してオリジナルランチセットをつくる。	Lesson7 自分の一日を紹介しよう	●世界の国々や時差について関心をもち、自分の生活表を作成したり、自分の一日を紹介したりする。

外国語活動 学習指導案

- 1 単元名：友達の誕生日を知ろう（第3限目） **第6学年3組**
- 2 使用教材：「英語ノート」CD-ROM 絵カード 写真（英語ノート17ページ）
- 3 本時のねらい：有名人の誕生日を聞き取ったり、自分の誕生日を話したりする活動を通して、月の言い方や日付の言い方に慣れ、進んで聞いたり話したりする。

4 本時の展開

学 習 活 動	T1	T2	留意点・準備物・評価
1 あいさつ Hello! I'm fine/sleepy. July 7th Tuesday. 2 復習 ・月の名前を画像を見ながら言う。	・How are you? ・What's the date today? ・Let's Review! ・コンピュータ操作	・話せない児童の近くに行って声をかける。 ・日にちのカードを黒板に貼る。 ・月のカードを黒板に貼る。	◇自分の実際の状態を話させるようにする。 ◇月日、曜日、天気を確認する。 ◇チエル フラッシュ英単語を使う。
誕生日はいつかな？聞いたり話したりしよう！			
3 誕生日の言い方 ①キーワードゲーム ②カードゲームを行う。 ・先生の言った言葉を聞き取ってカードを挙げる。 ③誕生日あてゲーム ・誕生月をあてさせた後、誕生日を聞く。日付の言い方を確認する。 ④自分の誕生日をカードに書き、グループで誕生日カルタを行う。	・キーワードを決め、英語で月と日にちを言う。 ・カルタゲームを行う。誕生日を話す表現で出題する。 ・コンピュータで画像を映し、誕生月がいつか予想させる。 ・予想の後で誕生日を教える。 ・自分たちの誕生日を書いたカードを使ってカルタをすることを知らせる。	・模型を配布する。 ・聞き取れない子のために繰り返して話す。 ・分からない子には近くに行き指さしする。 ・座席表にメモする。 ・発言した児童をチェックする。 ・カードを黒板に貼る。 ・自分の誕生日の言い方が理解できていない子の近くで指導する。 ・取組の状況を観察し、座席表にメモする。 ・がんばっている子を賞賛する。	◆評価 英語の月を聞き取り、進んでカードを挙げようとしていたか。（音声や表現への慣れ） ◇1月～12月までに生まれた有名人の写真をコンピュータで見せる。 ◆評価 自分の誕生日を言ったり、友達の誕生日を聞いたりして積極的に活動に参加していたか。（コミュニケーション）
4 振り返り 今日の活動の振り返りをする。	・よくなったことを認め賞賛する。		

5 評価規準

- ・ゲームや活動を通して、英語での月日の言い方に慣れ、聞いたり話したりしようとしている。（外国語の音声や表現への慣れ親しみ）

6 指導後の反省点等

- ・誕生日あてゲームでの映像は、子どもの興味・関心を引き、効果的だった。最後の誕生日カルタが、時間の都合で十分できなかった。前半部分の活動内容の精選が必要だった。

外国語活動 学習指導案

1 単 元 名：クイズ大会をしよう（第3目目） 第5学年2組

2 使 用 教 材：「英語ノート」CD-ROM 絵カード（英語ノート45ページ）

3 本時のねらい：文房具を聞き合ったり海の生き物を英語で表現したりする活動を通して、「What's this?」の言い方に慣れ、進んで聞いたり話したりしようとする。

4 本時の展開

学 習 活 動	T 1	T 2	指導上の留意点・評価
1 あいさつ Hello! I'm fine./sleepy/	<ul style="list-style-type: none"> ・How are you? ・曜日、日にちを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話せない児童の近くに行き声をかける。 	◇月日、曜日、天気を確認する。
英語を使ったミニゲーム大会をしよう			
2 復習 マッチゲーム ・小グループでスポーツ名の三種類のカードを合わせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力しよう話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを回り、困っている児童の側でヒントを与える。 	☆スポーツ小カード（日本語・英語・中国語） ◇言葉のつくりの共通性に気付かせる。
3 文房具の言い方 ①カードあてゲーム	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ①全体でカードを見ながら言い方を確認する。 ②教師がカードの見せ方を工夫して聞き、答えさせる。 ③子ども同士で聞き合いをさせる。(ペア) </div>		◇教室を二つのグループに分けて少人数指導をする。
②画像あてゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを操作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・What's this?と尋ねる。 ・児童を指名する。 ・児童の間に入って一緒に歌う。 	◆評価 「What's this?」を使いながら受け答えしようとしていたか。(コミュニケーション)
③チャンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを操作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない子にはヒントを与える。 	☆自作教材 ☆「英語ノート」電子教材
4 海の生き物 ・マンボウ・トビウオの名前を、-fishを使って表現させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の仕方について説明する。 ・画像を提示し、イメージをふくらませるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい考えに対してほめる。 	◆評価 イメージを生かし、英語や日本語を使って、魚の名前を考えようとしていたか。(言語や文化)
①グループで相談しながら、名前を考える。			
②互いに聞き合う。			

5 評価規準

- ・言葉のつくりを知り、イメージを生かして魚の名前を考えようとしている。
(言語や文化の体験的な理解)

6 指導後の反省点等

- ・子どもたちは「英語ノート」に出てくる「海星」や「海月」のような漢字に興味をもっていた。スポーツ名を日本語・中国語・英語で比較させたことは、子どもたちに言葉のつくりの面白さに気付かせ、言語や文化の体験的な理解のために有効であった。
- ・最後の場面ではグループの中で発表させたり、代表で何人か発表させたりした。互いに聞き合う場面をさらに設定し、コミュニケーションを行う活動を増やすべきであった。

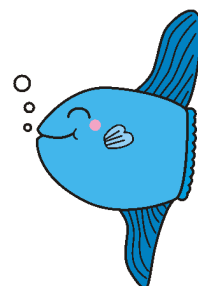
<授業後の感想>

◎授業の考察

<子どもたちの考えた名前>

マンボウ

Big ball fish	Big fish	Ball fish
Hat fish	Dynamic fish	Sleep fish
Rocket fish	Slow fish	Biscuit fish
Cup fish	King fish	
ビート板fish	ひらたfish	ボートfish
サークルfish	スカルfish	たいらfish
おちょぼ口fish 3		



トビウオ

Sky fish	Bird fish	Jumping fish
Jump fish	Fly fish	Jet fish
High jump fish	Wing fish	Rocket fish
Airplane fish	White blue fish	ミサイルfish
ダーツfish	チャレンジfish	スマートfish
ロングfish		



児童の考えた名前は、形・様子・色・生態・イメージなど、その魚の特徴をとらえて付けていた。この活動の中では、英語ではなく日本語を使ってもよいことにしたため、子どもなりの自由な発想が出てきた。また、机間指導の際、「先生、飛ぶって英語で何て言うの？」などと質問する子どもも多く、自分から英語の表現を求めている姿が見られた。

<児童の感想から>

- ・魚の名前を考えるのは、とても楽しかった。
- ・みんなで魚の名前を考えておもしろかった。もっとあると思うからもっと考えたい。みんなで考えると、いろいろな名前が出て楽しかった。
- ・いろいろな魚の漢字や名前も考えられて、いろいろな友だちの意見も聞けてよかった。
- ・日本語に意味があり、そのことを英語と比べたのがおもしろかった。

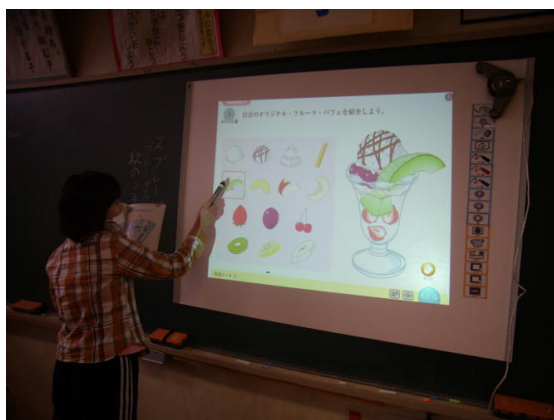


以上のように、児童はそれぞれの活動を十分楽しく行っていたと感じる。自分の思いを話したり、友達の考えを聞いたりすることに意義を見出している児童もあり、本授業の取り組みは児童がコミュニケーションをしようとする意欲を喚起するためには、有効であったと考える。

＜「英語ノート」及び付属教材を活用した 授業の実際＞

「英語ノート」1 Lesson 6 外来語を知ろう

- ・ 電子黒板を使って、アクティビティのデモンストレーションや発表を行う。付属の電子教材は動きが見えるため、パフェを作って発表させるには大変効果的であった。
- ・ 教師のみが操作するのではなく、児童が操作しながら発表できるため、聞いたり話したりすることへの意欲の高まりが見られた。



(電子黒板を使ってパフェを作る。)



(「英語ノート」を使って発表)

- ・ 児童は各自の思いを生かして「英語ノート」にパフェを作り、聞き合った。グループで発表させた後、全体で発表するなど活動の形態を工夫することで、聞いたり話したりする活動が無理なく進められた。この授業では、自分の作ったオリジナルパフェに名前を付けさせた。同じような材料を選んでも、児童によっては違う名前を付ける場合もあり、聞く・話すという楽しさが感じられた。



(小グループでの活動)

＜校内での研修の様子＞



(協同での教材づくり)



(校内の授業研究の様子)